

クラウド上に新アテネの学堂を作る

■ 使用する機器、アプリ等

iPad、ロイロノート

■ 学習のねらい

パフォーマンス課題「新『アテネの学堂』を作る」に取り組み、古代ギリシャの哲学者の1人の思想をまとめ、その思想を表現するポーズを自分なりに考える。

■ 学習の流れ

【本時までの学習】(3時間)

自然哲学に関する知識を学ぶ中で、古代ギリシアで万物の根源の探究が始まった理由や、どのようなものが万物の根源に想定されたのかについて学んだ。

また、古代ギリシアの三大哲学者、すなわちソクラテス、プラトン、アリストテレスについて、彼らの思想を理解し、その共通性と独自性を学んだ。

【本時の流れ】(50分)

パフォーマンス課題「新『アテネの学堂』を作る」

プラトンは、現実の世界とは別に、理想の世界、すなわちイデアの世界があるという思想を持っていた。ラファエロは「アテネの学堂」の中で、現実とは真逆の天を指差すポーズを取らせることによってプラトンであることを示した。

このラファエロの着想に倣い、古代ギリシアの哲学者の1人の思想を表すポーズを考え、写真に収めるとともにポーズの根拠となる思想をカードにまとめなさい。

時間	学習活動
5分 導入	○前時の復習と本時の目標の確認をする。
15分 展開①	○ロイロノートのシンキングツールを使って古代ギリシア哲学者の思想を整理した上で、古代ギリシアの哲学者のうちから1人選び、その人物や思想を表現するポーズを考える。 ・ノート、教科書、資料集、インターネットを用いて収集した情報を参考資料とする。
15分 展開②	○古代ギリシアの哲学者の1人の思想を表すポーズを考えて写真を撮り、なぜその哲学者がそのポーズで表現できるのかを説明するテキストを付ける。 ・iPadを活用してポーズを撮影する。 ・テキストカードを作成する。 ・写真カードとテキストカードを連結させて提出する。
10分 共有・ まとめ	○クラウド上にあるカードを全体共有する。 ・なぜそのようなポーズにしたのかテキストを使って生徒による説明を行う。 ・教員によるフィードバックを行う。

【本時後の学習(1年間のまとめ)】

「あなたの哲学は何か」と問い、生徒自身の哲学をポーズで表現する。

■ ココで ICT を活用！

哲学者の思想を調べてまとめる

ポーズの撮影前に、古代ギリシャの哲学者を1人選び、その思想について調べた。資料として教科書や資料集、授業で使用したワークシートのほか、インターネット検索も活用した。調べた内容をもとに、生徒はポーズを撮影した。その後、ロイロノートのカードに、ポーズの根拠となった哲学者の思想をまとめ、ポーズの写真と連結させることで簡単なプレゼン資料を作成した。

哲学者の思想をポーズで表現し、記録する

「アテネの学堂」に倣って、生徒は古代ギリシャの哲学者から1人選び、その思想をポーズで表現した。ポーズを撮影するときは、撮影場所を考え、必要に応じて小道具も用意させた。ロイロノートのカメラ機能で撮影し、写真をカードとしてクラウドに保存した。ひとりでは撮影できないので、クラスメイトと協力しながら撮影し合うようにした。

■ ICT 活用のメリット

文字だけでなく身体表現が可能に

この授業では「アテネの学堂」に倣い、生徒は哲学者の思想を調べてまとめた後、その哲学者の思想を表すポーズをとり、タブレットで撮影して記録する。これまでは、文字による表現方法を取ることが多かったが、写真という表現方法が可能になり、生徒の表現の幅が広がった。また、生徒がクラスメイトの表現を相互評価することによって、哲学者の思想に対する理解がさらに深まった。

生徒1人1人のニーズに沿った使い方ができる

タブレット端末には、カメラ機能だけでなく、テキストの入力やインターネット検索など、さまざまな機能がある。ポーズを撮るのに時間をかけたい生徒も、写真に加工を加えたい生徒も、カードにたくさんの内容を記入したい生徒も、インターネットを使ってさらに調べたい生徒も、タブレットを使えば、同じ教室で同時にそれぞれの活動を行うことができる。

記録したポーズを共有し、それぞれの考えを比較できる

この「新アテネの学堂」を作るという試みは、写真を撮影できることと、写真を共有できる学習環境が必要である。タブレット端末の機能を使うことで、1時間の授業の中で、撮影と共有の両方を行うことができる。ポーズを撮影した写真と、その哲学者について調べた内容を文字で記録したカードとをつなげ、提出してクラス全体で共有することで、クラスメイトのポーズや調べた内容と、自分の考え(解釈)と比較し、哲学者の思想に対する理解を深めることができる。

■ 本実践での工夫

自分自身(授業者)が見本を示す

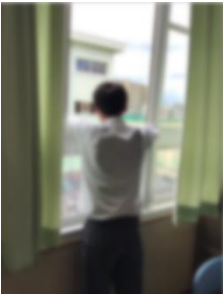
この単元の最終目標は、クラス全員で「新アテネの学堂」という一つの作品を作ることである。そのことを生徒に伝えるために、まずは授業者が見本として写真カードとテキストカードを作成し、生徒に提示した。そうすることにより、生徒1人1人がゴールのイメージを持つことができると考えた。

生徒の作品と授業者のフィードバックを共有する


共有の場面で、生徒は作品を提示しながら、なぜそのようなポーズにしたのかをテキストを使って説明した。それに対して、授業者は着想でおもしろい点を褒めたり、テキストカードに生徒がまとめたことからもう一步踏み込んで生徒に考える機会を与えた。

また、クラスメイトの作品を見て、哲学者の考えに対する様々な解釈を比較したり、その作品に対する授業者からのフィードバックを聞いて、深く作品に向き合わせた。

(生徒の成果物)

	<p style="text-align: center;">ゼノン</p> <p style="text-align: center;">ゼノンは 「自然に従って生きよう」 としていたから 自然に従って生きよう と決めた時の表現をした</p>
--	---

※この生徒は窓の外を見るポーズをしているストア派のゼノンを表している。この生徒とはこの後、ゼノンのいう「自然」は大自然のことだけではないことを確認し、「ゼノンは大空に何を見ているのか」と問いかけて、生徒の着想を大切にしながら深い学びに導く工夫をした。

	<p style="text-align: center;">ピタゴラスのエピソード</p> <p>輪廻(生まれ変わり)を信じていたピタゴラスは、道端で叩かれている犬を見て「その犬は友人の生まれ変わりだからやめてくれ」と止めに入ったことがある。</p> <p>ピタゴラスは『ピタゴラスの定理』で有名</p>
---	--

※この生徒は写真に犬のイラストを描き加えた上で、犬をかばっている様子を表している。この生徒にはこの後、「ピタゴラスの信仰心(特に「数」への信仰)とピタゴラスの定理の発見との関係性を考えるよう」に伝えた。ICTの活用を手段として、深い学びという目的が果たせるように意識した。

■ 実践の振り返り-活用を深めるために-

思想をポーズで表すためには、その思想を深く理解していなければならず、また、ラファエロとは別の観点で表現することが求められる。そして、お互いの作品を見合うので、多様な観点で古代ギリシャ哲学を振り返ることができた。1人に1台のタブレット端末があることで、それぞれの生徒が個別最適な学習プロセスで取り組むことができる。生徒たちは、普段の授業の何倍も熱心にこれまでの授業プリントを振り返ったり、教科書や資料集を読み直したりしていたし、さらにネット検索で情報を集めたりしていた。作品を作る時も、生徒同士で相談しあったり、写真の出来栄を確認しあったりしながら、より良いものを作ろうと努力していた。出来上がった作品に対する授業者からのコメントも、「自分の作品」に

対するものという意識があるので、しっかり受け止めていた。

今回は古代ギリシャ哲学のまとめとしてこのような「パフォーマンス課題」を設定したが、クラウド上に保存している出来上がった生徒の作品を西洋近代思想の導入(なぜルネサンス期にラファエロは古代ギリシャの哲学者たちを描いたのか)で再び活用できた。ひとつの学びが次の学びにつながっているということを、目に見える形で実感してもらうにも、ICTの活用は有効に機能し得る。ICTの活用がこれからの教育にもたらす豊かな可能性を感じることができた。